

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.7
平成25年6月20日

「朝のあいさつ人より先に」－地域の人にも挨拶ができてます

「おはようございます」

と、地域の人にあいさつをする子ども達の声が響いてきました。前ヶ須地区の交通指導で通学団に付き添って歩いていると、今までになかった光景に出会い、とても驚き、そして、感動しました。

朝、K病院の増築工事に携わっている方々に通学路ですれ違うのですが、子ども達は、しっかりとあいさつができていました。大人でも知らない人に対しては、たとえ地域の人であっても素通りしてしまうことが多いのですが、子ども達のあいさつの声に、新たためて教えられました。「朝のあいさつ人より先に」ということを。

これは、愛知県が輩出した偉大な教育学者森 信三先生の言葉です。仲間と無用の摩擦を引き起こさないで、円満にやってゆくには、どういう点に気を付けたらよいか。まず、「朝晩のあいさつだけは必ず自分から先にする」ということを、「人生二度なし」という著書の中で述べています。そして、「自分より年上の人に対してばかりでなく、自分と同年配の人に対しても、さらには、自分より年下の人に対してまで、常に自分の方から先に、あいさつをする人であってほしい」とも述べています。

そして、「あいさつは、お互いの人間関係を正しい軌道に乗せる作業だといってよく、一日の暮らしの中で、すべての事柄に先行する大事な心がけだといってもよい」とその理由を付け加えています。

我々、大人も職員同士だけでなく、地域の方々にも積極的にあいさつをするように心がけたいと思っています。



中日新聞 ヤングアイズより

ぼくは、おじいちゃんとおばあちゃんといっしょにくらしています。おばあちゃんは78歳で、おじいちゃんは84歳です。

おじいちゃんは、力もちでいろいろなことができます。はこやたなを自分でつくります。ぼくとうでずもうをしたら、おじいちゃんが勝ちました。

おばあちゃんは、いろいろなことができなくなりました。時々自分でごはんを食べることができなくなります。手足がほそくなっています。手のひらはプールに入った後のようにしわしわです。

少し前まではとても元気で、ぼくたちといっしょに遠くまでおさんぽに行きました。今は一人で歩くと、すぐころんでしまいます。

きゆうにいろいろなことができなくなって、ぼくは、とても悲しいです。そのうちおばあちゃんも、歩けなくなるかもしれません。そのときは、ぼくがいっしょに手をつないであげます。

小見門侑治郎 小学生10 (愛知県豊橋市)

この作文を読んだとき、思わず目頭が熱くなりました。10歳の小学生がおばあちゃんに対して、こんなにも優しく、温かい思いを注いでいることに感動しました。同時にこの優しさは、この家族の深い愛情によって育まれたものだと感じとることができました。改めてこんな優しい心をもった子を家庭でも、学校でも育てていかなければならないという思いを強くしました。